

<第4297回>

目的地：六甲全山縦走

担当者：川口

実施日：2022年10月8日(土)

形式：日帰りハイキング

費用：¥1,170.-

参加者：4名

天気：くもりのち晴れ

行程：

須磨浦公園駅(6:30)→梶尾山(7:35)→(9:15)高取山安井茶屋(9:25)→鶴越駅(10:05)→菊水山(11:00)→市ヶ原(12:30)→摩耶山(14:05)→(15:55)六甲ガーデンテラス(16:05)→(16:45)一軒茶屋(16:55)→塩尾寺(19:35)→阪急宝塚駅ゆめ広場(20:20)[解散]

感想：

とある例会の帰り道、同期のY青年と車内でこんな会話を交わした。この日、1年ぶりの六甲全山縦走例会の開催が決まったのである。

川口「ほんまは、月に1回ぐらいは全縦しときたいんやけどな」

Y青年「……」

川口「それが無理ならせめて、半年に1回とかなあ」

Y青年「……」

川口「次の例会は12時間ぐらいで、だーッと縦走しとくか」

Y青年「誰も来ませんよ」

いいえ、そんなことはありません。秋らしく、キリリと冷えた朝の空気に包まれた須磨浦公園に、ぼくを含め4名の有志が集まったのである。

スタート直後の階段を一気に登る。振り返ってメンバーの様子をうかがうも、誰も息を切らせてはいない。朝日に照らされる大阪湾と神戸の景色を眺めながら、旗振山、須磨アルプス、高取山へと進んでゆく。風がとても冷たい。つい先日までの、まるで真夏のような暑さが嘘のようだった。

鶴越駅から菊水山へと向かう。六甲全山縦走の最初の難所を越え、ガレた急な登山道を、天王吊橋へ向かって下る。途中、ひとりのハイカーがぼくたちを追い越した。足下を見ると裸足で、体使いが猫のようになやかだった。

市ヶ原に到着したのは12時30分。少々ペースが速すぎた。計画では13時30分着でよかったのだが。

しかしメンバーに疲れは見られない。「少し速いが無理のないペースだ」ということで、このまま進むことにした。

摩耶山を登り切り、標高が800mに近づくとつれ、季節がどんどん進んでゆく。立ち止まると寒いぐらいだった。大勢の観光客でにぎわう六甲ガーデンテラスでは、観光バスが続々と到着し駐車場は満車だ。この時点で、時間は十分にあった。観光客に混ざり休憩をとることにした。

するとY青年が見慣れないものを口にしている。一見、スーパーで手に入るエナジーゼリーのようだが、点滴のパックのようにも見える。

「これ、胃ろうに使う栄養剤です。経口摂取もできるんです」

「期限切れの物をもってきました」

彼は病院に勤務している。医療用の、いわゆるカロリーメイトのようなものらしい。「味の種類も選べるんですよ」

ぼくも盲腸で入院生活の経験がある。術後はしばらく何も口にできなかったが、回復するにつれゼリーのような物を食べていた記憶がある。味を選べるのはせめてもの救いだ。

「で、それ美味しいの？」

「まずいです」

うむ、Y青年はこうでなくてはならないと、なぜかひとりで納得した。16時を過ぎ、陽は大きく傾き始めた。

六甲山最高峰へは登らず、直下の広場で記念撮影。東六甲縦走路へ入りしばらくゆくと辺りは暗闇に包まれ、ヘッドライトを灯した。宝塚側から登ってくる数名のランナーとすれ違う。塩尾寺へ到着し舗装路を下った

先の広場から眺める、宝塚の夜景が美しい。道路をさらに下り、20時20分に阪急宝塚駅ゆめ広場に到着した。

川口「久しぶりやと疲れるなあ。やはり月に1回は全縦しとかないと」

Y青年「……」

川口「それが無理なら、せめて半年に1回ぐらいは」

Y青年「……」

川口「今度は全縦してから須磨まで歩くか。しかし、大阪への帰りはどうしよう」

Y青年「誰も来ませんよ」

公称56kmの道のりを歩き切り、心地よい疲労を感じつつ電車で揺られて帰途についた。